

修 士 論 文

中国の近代の翻訳語彙における日本

からの影響

—周作人をめぐって

岩手大学大学院総合科学研究科
総合文化学専攻

日本文化理解プログラム

氏 名 黄燕春

指導教員 小島聡子

2022年3月

中国の近代の翻訳語彙における日本からの影響
—周作人をめぐって

目次

はじめに.....	1
第1章 周作人と日本語、日本文化との関係.....	3
1-1 周作人と日本語との接触.....	3
1-2 周作人の日本語と日本文化に対する考え.....	4
1-3 周作人の和製漢語に対する考え.....	8
第2章 周作人の直訳法.....	10
2-1 周作人の直訳法の形成.....	10
2-2 周作人の直訳の実態.....	14
2-2-1 清少納言の『枕草子』の翻訳の比較.....	14
2-2-2 国木田独歩の『少年の ^{こども} 悲哀 ^{かなしみ} 』の翻訳の比較.....	16
第3章 和製漢語の定義・分類.....	23
3-1 和製漢語とは.....	23
3-2 和製漢語の発生.....	24
3-2-1 江戸期以前の「和製漢語」.....	25
3-2-2 明治期以降の「和製漢語」.....	25
3-3 「和製漢語」が中国に入る理由.....	26
3-4 中国での「和製漢語」に対する分析.....	28
第4章 周作人訳文中の和製漢語.....	35
4-1 調査対象・方法.....	35
4-2 調査結果.....	36
第5章 現代中国語における和製漢語の受容.....	45
5-1 調査対象・方法.....	45
5-2 調査結果.....	46
おわりに.....	49
参考文献.....	50

はじめに

周知のように、漢学いわゆる中国の古典文学は日本の文学に幅広く影響を与えてきた。一方、二十世紀前半には、日本語から中国語への翻訳が盛んに行われたことで、逆に日本の文学が中国の近代文学に大きな影響を与えた。それまで、封建的な社会に束縛されていた中国の知識人が、日清戦争の敗戦と戊戌の変法の失敗をきっかけに、外国の科学技術、法制を学ぶだけでなく、外国の文学や哲学なども学ぶ必要があると意識したのである。

まず、1890年代後半には、欧米文学の日本語訳をさらに中国語に翻訳するということが盛んになった（楊鳳鳴 2014）。つまり、当初日本は、中国が欧米文学を学ぶための媒介としての役割を果たしていたのである。次に、二十世紀に入ると、欧米文学の日本語訳ではなく、日本文学そのものの中国語への翻訳も盛んになってきた。例えば、魯迅をはじめとする「語絲派」、および郁達夫と郭沫若らの「創造社」などが有名で、彼らはいずれも日本の文学作品を数多く翻訳していた。

本研究では、その中でも魯迅を中心とする「語絲派」の一人である周作人を取り上げ、彼の翻訳活動に注目する。周作人は一貫して直訳を主張しており、日本文学を翻訳する際に、多くの日本語の漢語をそのまま使って中国語に翻訳した。このような中国の文脈で使った漢語は「和製漢語」（他に日本語借用語、日本語外来語とも言う）と言われることもあり、その一部分は現在の中国語の中に取り入れられ普通に使われている。

周作人は魯迅と共に多くの日本文学を中国語に翻訳した。そして、文学の翻訳の領域で当時から高い評価を得ていた（楊莉 2007）。そのため、これまでは文学者や翻訳家として研究されることが多く、日中の語彙交流における周作人の役割や影響についてはあまり注目されていなかった。しかし、日本に留学した作家たちの言葉遣いは中国語の語彙史の中で注目に値する。彼らは日本語に精通しており、日中の語彙交流の過程で橋渡しの役割をしていた。

周作人と日本及び日本文学との関係については、従来から注目されてきた。例えば、木山英雄（1973）は「中国の文学者で、周作人ほど日本と日本文化に深くかかわった人物は、他に見当たらない」と語っている。また、竹内好（1937）も周作人について「教養として

の日本文学を最初に有つた人である」といつている。

ところが、第二次大戦後、周作人は日本寄りの人物として捕らえられるなどし、1980年代の初頭までは中国国内ではその存在はタブーとされていた。改革開放（1978年）とともに、そのタブーはなくなり、中国国内でも周作人に関する研究が行われるようになったが、一部の人々の間に限られ、詳細な考察と論述は出来なかった。その間、日本では、日本人や在留の中国人によって周作人研究が進められてきた。例えば、木山英雄（1983）「正岡子規と魯迅、周作人」、林涛（1998）「周作人と武者小路実篤—『人間の文学』と『自己の園地』に見る『新しき村』の精神—」などがある。ただし、これらの研究は主に周作人が日本近代文学へ与えた影響および日本文学が周作人へ与えた影響を中心に展開されている。つまり、周作人個人と日本の近代文学との相互の影響関係についてであって、周作人が翻訳した日本の作品が当時の中国へ与えた影響については検討できていない。他に、周作人に関する研究は文学、思想、日本との関係などに集中していて、言語的な面についての研究、1990年代まで周作人と日本語と日本語からの借用語との関係についての研究はいくつかは見られるが、規模は大きくない。

2000年以降、周作人についての研究は白話文の文体や語法などに目が向けられるようになったが、語彙的な側面まではまだ目が届いてない。例えば、王風（2009）¹は周作人の早期の散文を分析して、彼が構文、句読点などの面で中国語の書き言葉に与えた影響などについて考察している。その中で、周作人が翻訳の過程で用いた日本語の漢語が近代中国の白話文に影響を与えたことも検討されるようになってきた。そこで、本研究では周作人による日本文学の翻訳に改めて注目しつつ、周作人が翻訳の過程で用いた「和製漢語」が近代中国語にどのような影響を与えたかという問題を考える。特に彼がどのように日本語を理解・受容していたのか、さらに「和製漢語」の使用頻度を調査しながら「和製漢語」の現代中国語での使用状況について検討する。

¹ 王風 2009年「周氏兄弟早期著訳与漢語現代書写語言」『魯迅研究月刊』

第1章 周作人と日本語、日本文化との関係

1-1 周作人と日本語との接触

周作人(1885年1月16日-1967年5月6日)は浙江紹興で生まれた。本名は周櫛寿(別名は周奎綬)、魯迅の弟である。中国現代の随筆家、評論家、詩人、翻訳家、思想家であり、中国民俗学の開拓者としての役割を果たし、新文化運動の中心人物でもあった。『周作人年譜』²によると、周作人が本格的に日本語の勉強を始めたのは1906年9月に日本に留学した時からである。当時、日本語の基礎がない周作人は、来日後すぐに日本法政大学の予科に入学して、日本語を学んだ。同時に、彼は中国留学生会館の個人組織の講習会でも日本語を勉強していた。講習会は、一週間に三、四回ぐらいで、1911年まで六年間通って続けた。

他の留学生と違って、周作人は日本文化に対する態度が非常に積極的である。留学を始めてから、彼は日本の生活に慣れるように努力し、あらゆる機会を利用して日本の文化を探究した。晩年の思い出の中で、彼は留学していた当時の思いについては次のように述べている。

到日本来单学一点技術回去，結局也終是皮毛，如不从生活上去體驗，对于日本的事情便无法深知的。³

(訳：日本に来て技術だけを勉強して帰ったら、結局は浅はかで終わってしまう。生活から体験しないと、日本のことはよく分からないままになってしまうでしょう。)

この生活から体験するという事の中にはもちろん日本語に対する学習も含まれている。

周作人の留学の目的はもともと日本で海軍の技術を勉強することだったが、彼はこれに対して全く興味を持てなかった。その後、潔く海軍の勉強をやめて、古代ギリシャ語を勉強し始めた。これは後の周作人の文学者としての人生に大きな影響をもたらした。ただし、注意が必要なのは、周作人は海軍の専門技術も、古代ギリシャ語も、日本語を媒介として

² 張菊香・張鉄榮 2000年『周作人年譜』天津人民出版社 67頁

³ 周作人 1944年『蕪堂雜文』河北教育出版社 2002年 100頁

勉強していることである。

ところで、周作人は日本に来る前から執筆活動をしていた。来日後、六年間日本語を勉強した後、彼は日本の小説を翻訳するだけでなく中国語で自分の作品を創作することも続けていた。周作人と兄の魯迅は中国の近代翻訳史において「直訳」で有名な翻訳家である。しかし、彼らが最初に翻訳した作品はほとんど西洋文学の日本語訳著作で、これは当時の中国人留学生が日本に行った目的、つまり日本・日本語を媒介として、西洋文明に触れるという目的を反映している。しかし、日本語訳版から翻訳するさえに、日本語中の漢語をそのまま利用したため、結果として日本語の借用語が中国社会に流布されることになった。つまり、日本で作られた漢語「和製漢語」が中国へ逆輸入していたことである。

1-2 周作人の日本語と日本文化に対する考え

初期の日本留学生で、帰国後新文化運動の中心人物になった周作人は、早くから日本語・日本文化に対する独特な考えを表明している。例えば、当時の中国人留学生の社会で流行っていた「中日両国同文同種」という言い方に対して、周作人は『日本与中国』という文章で日本語と中国語には大きな違いがあると明確に指摘した。

中国与日本并不是什么同种同文，但是因为文化交通的缘故，思想到底容易了解些，文字也容易学些，（虽然我又觉得日本文中夹着汉字是使中国人不能深切地了解日本的一个障害），所以我们要研究日本便比西洋人便利得多。⁴

（訳：中国と日本は同文同種ではないが、文化が交流しているので、その思想が分かりやすく、文字も学びやすい。（日本の文の中に漢字が使われていることは、むしろ中国人にとって日本を深く理解するのを妨げていると思うが）日本を研究するのは西洋人よりずっと便利である。）

このような見方は、日中両国の文字に対する当時の社会の一般的な見方と大きく異なっており、周作人の日本語に対する認識が非常に深いことを示している。

⁴ 周作人 1927年『談虎集』河北教育出版社 2002年 317頁

言語は文化の担い手だという。ある言語を身につけようとする時、その言語を使う文化を知ることは不可欠である。つまり、言語は文化を離れて独立するわけではない。日本の言語文化を考察分析する際には、日本文化に対する関心を避けられない。周作人は日本と日本の文化を研究する必要性と重要性を何度も強調している。例えば、彼は前述した『日本と中国』の冒頭の部分で、次のように指摘をしている。

中国在他独特的地位上特别有了解日本的必要与可能，但事实上却并不然，大家都轻蔑日本文化，以为古代是模仿中国，现代是模仿西洋的，不值得一看。日本古今的文化诚然是取材于中国与西洋，却经过一番调剂，成为他自己的东西，正如罗马文明之出于希腊而自成一家，（略）所以我们尽可以说日本自有他的文明，在艺术与生活方面更为显著，虽然没有什么哲学思想。我们中国除了把他当作一种民族文明去公平地研究之外，还当特别注意，因为他有许多地方足以供我们研究本国古今文化之参考。从实利这一点说来，日本文化也是中国人现今所不可忽略的一种研究。⁵

（訳：中国はその独特な地位の上で特に日本を知る必要と可能性があるが、実はそうではなく、みんなは日本の文化を軽蔑している。日本古今の文化は中国と西洋を真似したので、見る価値がないと考える。日本古今の文化は確かに中国と西洋から取材したのだが、少し調整した後に彼ら自身のものになった。まさにギリシャから取材したローマ文明のごとくである。（略）だから、当然日本には日本なりの文明がある。哲学、思想などの成果はないが、芸術と生活の面ではその成果が最も目覚ましい。私たちの中国は日本を民族文明として公平に研究することが大事だが、それ以外に特に注意すべきなのは、日本の中に自国の古今文化を研究するための参考になるところが多くあることである。実利という点から言っても、日本文化の研究は今の中国人にとって無視できないことである。）

さらに、周作人はまた『日本語について』という文章を発表して、日本語に対して独自の考察を行なっている。しかし、当時の中国と日本は戦争状態にあったため、このような文章を発表したことで、周作人は日本寄りの人物だというような批判を受けてしまうことになった。ただ、現在の我々から見れば、内容的には、いかなる思想意識の傾向も示され

⁵ 周作人 1927年『談虎集』河北教育出版社 2002年 317頁

ているわけではなく、周作人が日本びいきだというような批判は当たらない。この本は、周作人がどのように日本語を習得したかを客観的に分析したものである。

この他に、周作人は『北大的支路』の中でも日本文化・日本文学の研究の重要性を強調している。

日本有小希腊之称，他的特色确有些与希腊相似，其与中国文化上之关系更仿佛罗马，很能把先进国的文化拿去保存或同化而光大之，所以中国治“国学”的人可以去从日本得到不少的资料与参考。从文学史上来看，日本从奈良到德川时代这千二百余年受的是中国影响，处处可以看出痕迹，明治维新以后，与中国近来的新文学相同，受了西洋的影响，比较起来步骤几乎一致，不过日本这回成为先进，中国老是追着，有时还有意无意地模拟贩卖，这都给予我们很好的对照与反省。⁶

(訳：日本は小さなギリシャとして知られている。その特徴は確かにギリシャと似ている。中国との文化的関係はローマの文化的関係とも似ている。先進国の文化をよく保存したり同化したりすることができる。したがって、中国の「国学」を治める人々は日本から多くの資料と参考を得ることができる。文学史の観点から見ると、日本は奈良から徳川時代（江戸時代）までの千二百年以上中国の影響を受けており、至る所に痕跡が見られる。明治維新以降は、中国の最近の新文学と同じように西洋の影響を受けている。手順はほぼ同じだが、今回は日本が進んでおり、中国は常に追いかけている。意図的または意図せずに模倣していることもある。これは私達に良い対照と反省を与えてくれる。)

これらの文章からは、周作人が日本研究の必要性を明確に認識していたことが分かる。

もちろん、日本や日本文化を重視するこのような姿勢は周作人に限ったことではなく、彼と同時代にあった一部の政治家や学者たちも同様の見方を示している。例えば、近代の有名な政治家、中国国民党の右派の戴季陶（1891－1949）は『日本論』（1928年）の中で、当時の社会で英語など西洋語を重視して日本語を軽視していることを批判し、日本語学習の必要性と重要性を述べた。

⁶ 周作人 1936年『苦竹雜記』河北教育出版社 2002年 217頁

我劝中国人，从今以后，要切实的下一个研究日本的工夫。（略）何况在学术上、思想上、种族上，日本这一个民族，在远东地方，除了中国而外，要算是一个顶大的民族。他的历史，关系着中国、印度、波斯、马来，以及朝鲜、满州、蒙古。近代三百多年来，在世界文化史上的地位，更是重要。⁷

（訳：中国人に、これからはしっかりと日本を研究するように勧める。（略）さらに、学問、イデオロギー、人種の観点から、日本という民族は、極東地方では中国を除いて、最大の民族と見なされている。日本の歴史は中国、インド、ペルシャ、マレーシア、朝鮮、満州、モンゴルに関わっている。近代の三百年以上の間、世界文化の歴史におけるその位置はさらに重要である。）

この見解は、戴季陶の政治家としての実用主義と叡智を反映したものといえる。しかし戴季陶はこのような見解が『日本論』の中でのみ示しているが、一方周作人は繰り返し多くの文章の中で日本語と日本文化の重要性を述べている。

さらに、周作人は、当時の中国社会が日本文化を軽視していたことを批判すると共に、中国人が日本語について中国人なら教師がいなくても非常に短い期間で習得できると信じていることを批判している。例えば、彼は『日本浪人と順天時報』という文章で次のように指摘している。

中国人不了解日本，以为日本文化无研究之价值，日语三个月可以精通，这种浅薄谬误的意见实有改正的必要。

（訳：中国人は日本を理解しておらず、日本文化は研究に値しないし、3ヶ月間で日本語に精通できると思っている。このような表面的で誤った意見は本当に修正する必要がある。）

以上のように、周作人は日本や日本の文化を非常に重要視していたことが分かる。この日本に対する前向きな見方は、彼に日本の言語と文化に対して濃厚な興味を生むように

⁷ 戴季陶 1994年『日本論』海南出版社 16-17頁

促した。特に彼は積極的に日本語を学ぶことを通じて日本文化に対する理解をつながるということを提唱する。

1-3 周作人の和製漢語に対する考え

明治の日本社会では新しい漢字語が数多く作られたが、それらは旧来の漢語に対して、「新漢語」と言われることがある。一方、同時期に中国国内では日本書の翻訳ブームが起きて、「新漢語」の一部が中国語に取り入れられ「新名詞」「新語」と言われた。郭沫若が1955年早稲田大学で行った講演で述べているように、「中国文壇の大部分は日本留学生がつくりあげたのである。創造社の主要な作家は日本留学生であり、語絲派も同様である…中国の新文芸はすっかり日本の洗礼を受けている」。こうした日本留学生出身の作家たちは自分の文章、訳文の中でこういう「新名詞」「新語」を使った。このような「新名詞」「新語」の多用について、中国人のなかには賛成する人もあれば、反対する人もあった。

例えば、初期にある梁啓超は賛成派である。彼は自分の文章のなかで多くの「新名詞」を使っているだけでなく、わざわざ中国人の日本語学習者のために詳細な註釈を加える⁸。また、梁啓超は『新民叢報』の第三年第一号（1904）から、「新釈名」という欄を設け、当時のいわゆる「新名詞」について詳細な注釈を行った。例えば、

“哲学”二字，是日本人从欧文翻译出来的名词，我国人沿用之，没有更改，原文为 philosophy，由希腊语变出。

（訳：哲学という二文字は日本人がヨーロッパ語から翻訳した名詞で、中国人はそのまま使っている。原文は philosophy で、ギリシャ語から変わった。）

大量の和製漢語が中国語に入ったことに対し、周作人も賛成派である。彼は自分の文章のなかでたくさんの日本語由来の漢語を使った。例として「人力車、万年筆、素人、心中、硝子、残念、卵湯、夕方、時計、写真」などが挙げられる。

また、周作人はこれについて「新名詞」（1927年）というテーマの文章を発表し、「新名詞」の出現に対して肯定的な態度を示した。そして、翻訳文の日本語の中に原文のまま

⁸ 李運博 2006年「梁啓超在中日近代漢字語彙交流中的作用」日語学習与研究

の外来語が多すぎることについて、「有本国語可用而必訳音……殊不可解」と批判した。つまり、自国語（日本語）があるのに使わずに音訳することに批判し、漢語や和製漢語などで意識にすることを推奨する。彼は、音訳した外来語の出現に対して消極的な態度を示す一方、意識された和製漢語の重要性を強調する。

なお、梁啓超と違い、周作人は特に和製漢語対する注釈をしていないが、自分の文章や翻訳文の中でこれらの和製漢語を次々と使っている。1919年になると、「日本が作った近代新語が中国に流入する流れはほとんど終わりに近づいてきた」⁹とされる。しかし、その後も周作人はその作品を通じて中国の読者に和製漢語を輸出している。李鵬（2014）¹⁰によると、周作人は、1924年から1927年に『語絲』に掲載されたエッセイでは異なり語数で198語の和製漢語を使用しているという。これらの和製漢語を使用したことで、中国語の語彙が増えただけでなく、中国語と日本語の語彙交流を結果的に促進することにもなった。彼が使った和製漢語の六割は現在の中国語に溶け込んで日常的に使われている。つまり、和製漢語を中国語に取り込んだ周作人の役割は重要で無視することはできない。

⁹ 邵艶紅 2013年「『明六雑誌』在中日詞彙交流中的作用与影響」日語学習与研究

¹⁰ 李鵬 2014年「周作人散文中的日語借詞初探」合肥学院学報

第2章 周作人の直訳法

2-1 周作人の直訳法の形成

周作人は十歳（1894年）から故郷の私塾である三味書屋で伝統的な漢学教育を受けていたが、1901年に江南水師学堂に入学した。ここは新しい教育に取り組んでおり、専門科目で英語の教科書を使っていたため、周作人はかなり深い英語の基礎ができて、直訳の方法も習得した¹¹。1904年、彼の最初の訳本「侠女奴」（原本は英語の「アリ・ババと40人の盗賊」）は学堂で身につけた直訳法を使って訳されたものである。当時まだ良い英中辞書がない中で、彼が翻訳するためには英和辞書の和製漢語を利用するしかなかった。1905年には、日本に留学した魯迅から送られた英和バイリンガル読本『英文学研究』（山県五十雄著）中の「宝ほり」を「玉虫縁」と改題して翻訳した。その時も周作人は日本語が分からず英語力も足りない状況であったが、英文と山県氏の日本語訳の中の漢字だけを見ながら何とか翻訳することができた。特に、山県氏の「宝ほり」は漢字の比重が大きいため、周作人が翻訳した「玉虫縁」は、「侠女奴」に比べて誤訳が少ないのである。

1909年には、周氏兄弟共訳で『域外小説集』（中国語）が日本で出版された。これにはヨーロッパの文学作品が多く収録されているが、その中には日本語から翻訳されたものがある。この小説集は古文の文才という点でも翻訳者の外国語に対する理解という点でも、傑出したものと言える¹²。しかし、直訳の方法を用いたため中国語としてやや不自然なところがあり、意識された流暢な中国語訳に慣れている読者には受け入れられにくく、売れ行きが悪くなってしまった。さらに、中国の人々に外国語の作品を中国語の古文で翻訳するのは失敗したと批判された。

それまであまり批判を受けたことがなかったため、『域外小説集』が不評だったことに兄弟は痛烈な打撃を受けた。その後、魯迅は長い間翻訳をやめてしまった。周作人は若干の短い作品を次々と翻訳してはいたが、地方の新聞や流行らない雑誌にしか発表しなかった。

¹¹ 宋声泉 2017年「晚清学堂教育与文章变革—以周作人为中心」『解放军艺术学院学报』

¹² 楊莉 2007年「周作人翻訳思想的形成及其影響」『訳林』

『域外小説集』を出版するより以前には、周氏兄弟の翻訳はどの作品を選ぶかからどの言語から訳すかというところまで、明らかに林紘の影響を受けていた¹³。周作人自身も、かつて林紘の翻訳の姿勢「以諸子之文写夷人的話」（諸子の文で外国人の言葉を書く）の影響を受けたことを認めている¹⁴。林紘は「中学為体、西学為用」（中国文学は主として、西洋文学は補佐とする）と主張している。しかし、林紘の主張について、周氏兄弟は「有自己无別人」という弊害を生ずる「中国中心主義」を打ち破り、より大きな世界を国民の視野に入れて、国民の目覚めを促す必要性があると考えた。さらに、翻訳の仕方の面でも、周氏兄弟は直訳を使って林紘の恣意的な翻訳によって引き起こされた欠陥を修正したいという願いを表明した。

『域外小説集』の翻訳出版は、周氏兄弟にとって翻訳の観念と方法において林紘の影響から脱する大胆な突破口であった。周作人の翻訳の経歴において、『域外小説集』以降に周作人の翻訳思想が徐々に形になっており、『域外小説集』は画期的な意味を持つ。

1917年に『新青年』誌が「文学革命」というスローガンを提唱し、以来、周作人と魯迅はこの雑誌に寄稿するよう招待された。そこで周作人はこの雑誌に「随感録二十四」¹⁵という文を発表した。この文で周作人は「アンデルセン童話」の中国語訳本の一つについて、「翻訳が退屈であり、アンデルセンの面白い原作とはかけ離れている」と批判した。この批評の文章からは、周作人の原作者及び原作の風格への敬意を見ることができる。またこの文で周作人は初めて自分の直訳観を鮮明に打ち出した。

1918年、『新青年』で周作人は張寿朋からの書簡「文学改良与孔教」に対する返事の中で、更に明確に自分の考えを表明し、直訳が「最も正当な」翻訳方法であると述べている¹⁶。また、1925年にも周作人は「陀螺序」¹⁷で直訳ほどいい方法はないと述べた上に次のように述べている。

直訳也有条件，便是必須達意，尽漢語力所能及的範圍内，保存原文的風格，表現原語的意義，換一句話說就是信与達。

¹³ 楊莉 2007年「周作人翻譯思想的形成及其影響」『訳林』

¹⁴ 周作人 1920年「点滴序」『苦雨齋序跋文』1934年出版

¹⁵ 周作人 1918年『新青年』第5卷3号

¹⁶ 周作人 1918年『新青年』第5卷6号

¹⁷ 周作人 1925年「陀螺序」『苦雨齋序跋文』1934年出版

(訳：直訳にも条件がある。即ち、中国語のできる範囲に原文のスタイルを保持した上、その意味を伝えるということである。換言すれば、信と達である。)

周作人は直訳で翻訳する際、「信」¹⁸を追求する同時に「達」もしなければならないという条件があると強調した。

このように、周作人の直訳の考え方は「信」と「達」を追求することで徐々に固まっていた。ただし、同じ直訳派の代表と見なされていた兄の魯迅とは、直訳に対する態度が違っている。魯迅の方は特に「信」(忠実)を強調し、あまり「達」(筋がよく通ること)を重視していない。彼は『二心集・硬訳与文学的階級性』で次のように述べている。

自然, 世间会有较好的翻译者, 能够译成既不曲, 也不“硬”或“死”的文章的, 那时我的译本当然就被淘汰, 我就只要来填这从“无有”到“较好”的空间罢了。

(訳：当然のことながら、世の中には良い翻訳者がいるでしょう。歪み曲がらずに翻訳できるし、硬くもなく死んでもない文章に訳せる。その時、私の訳本はもちろん淘汰される。私はこの何も無いからわりに良いまでのスペースを埋めるだけである。)

魯迅は自分の訳文が「硬訳」もしくは「死訳」だとされても、いつか淘汰されても翻訳の発展に貢献すればいいと思っていた。彼は1931年12月28日に翟秋白にあてた手紙の中で、高等教育を受けた人、すなわち文化レベルの高い読者を対象とした訳本は「寧信而不順」(訳文はすらすら読めてわかりやすいのより、原文に忠実な方がまだ)であるべきだと指摘した。彼は高等教育レベルの人のことしか考えおらず、普通の文化レベルの人を配慮していない。「忠実」を強調しすぎると訳文の「達」(筋がよく通ること)に影響を及ぼすこともあるため、彼の訳文は一般の読者には人気がない。

一方、周作人の「直訳」は「硬訳」より少し柔軟である。彼が翻訳した作品は魯迅よりかなり多いが、魯迅に比べると一般読者の読みやすさについて少し配慮しているため周作

¹⁸ 1898年に巖復は『天演論』の冒頭において、「信、達、雅」という翻訳基準を提唱した。即ち翻訳作品の内容が原文に忠実であることを「信」という、意味がよく通ずること(言葉をわかりやすくすること)を「達」という、上品で典雅な文章にすることを「雅」という。

人の翻訳作品の方が人気がある。例えば、彼は『翻訳四題』¹⁹で信と達と雅の重要性を指摘している。

信与达是不可分的,有如俗语所谓盾的两面,至于雅则本是达的一种成分,不能成为译文的一种独立的要素。

(訳:信と達は、いわゆる盾の両面のように切り離すことができない。雅はもともと達の構成要素であり、訳文の一つの独立した要素になることはできない。)

彼は翻訳の中で「信」も「達」も「雅」も欠かせないと表明した。このように、魯迅より言葉のわかりやすさを重視することで、周作人の訳文は普通の読者でもすらすら読めるものとなっている。

1945年に周作人は日本寄りの人物として投獄されたが、1949年に中国共産党の南京解放により保釈された。1952年に、彼は国家の委託を受けて北京人民文学出版社の特約翻訳者に就任し、ギリシャの古典文学と日本の古典文学の翻訳を担当した。周作人の文学翻訳は政府の大きな支持を得ていたが、1966年に文化大革命が始まると、周作人は家を封じられて、北京人民文学出版社からは給料も支払わなれなくなった。ただし、それまでの15年間で周作人は『日本狂言選』(1954年)、『浮世風呂』(1955年)、『古事記』(1959年)、『浮世床』(1959年)、『枕草子』(1961年)、『石川啄木詩歌集』(1962年)、『平家物語』(1966年)(七巻までで未完)などの日本文学を翻訳した。

出版社はさまざまな種類の作品の翻訳を周作人に要求したが、彼は自身の好みに合わない作品については翻訳を拒否した²⁰。周作人は文学作品の中から自分の考えや好みと相性の良い作品を探すのが巧妙であった。特に、古代ギリシャのヒューマニズムの精神と日本の含蓄のある審美観を好んでおり、多くの風格の異なる作品の中から、自分の好みに最も近いものを選んで翻訳し、原作の風格と訳文の風格の調和と統一を実現した。

周作人の翻訳活動は1904年までさかのぼるが、彼の直訳の思想は主に東京に留学している間に雛形が作られ、その後の翻訳の中で次第に成熟に達する。彼は20歳で『侠女奴』を翻訳してから、82歳で心血を注いだ『平家物語』(七巻までで未完)を翻訳するまで、

¹⁹ 周作人 1951年『翻訳四題』翻訳通報第二巻

²⁰ 楊莉 2007年「周作人翻訳思想的形成及其影響」『訳林』

文学の翻訳人生は 60 年余りあった。黄遥(2007)²¹の統計によると、彼が独自に翻訳した作品のうち、中・長編は 23 部、短編は 189 編、また他人と共訳した中・長編は 11 部だった。この長い翻訳の歳月の中で、彼はよく知っている日本語（古日本語を含む）、英語（古英語を含む）、古代ギリシャ語と世界語などの各言語に精いっぱい取り組んで、中国の近代翻訳に貢献してきたが、自分が提唱している翻訳の原則（直訳）から逸脱したことがない。

2-2 周作人の直訳の実態

日本語を中国語へ直訳で訳すと、当然訳者は日本語の漢語をそのまま使用することになるため、独特の文体となってあらわれる。周作人の直訳の実態を確認するため、彼が翻訳した古典文学『枕草子』と現代小説『少年の悲哀』について同じ作品を他の人が翻訳したものと比較して検討する。

2-2-1 清少納言の『枕草子』の翻訳の比較

まず、周作人が翻訳した『枕草子』と林文月、于雷が翻訳した『枕草子』と比較して、周作人の直訳の状況を考察する。

考察の対象は以下の通りである。

『枕草子』清少納言（新 日本古典文学大系、岩波書店、1991 年）

『枕草子』周作人（中国对外翻訳出版、2001 年）

『枕草子』林文月（洪範書店、2000 年）

『枕草子』于雷（河北教育出版社、2002 年）

具体的な方法としては、『枕草子』の原文を三つの中国語訳本と対照し、その中に出てきた「をかし」及び「をかし」に当たる中国語訳を探し出す。それらの表現を数学の統計方法を利用して収集する。

²¹ 黄遥 2007 年「周作人：勤耕尽瘁的翻訳大家」『英語研究』第五卷第一期

表 1²²

章節	原文	周作人訳	林文月訳	于雷訳
一	をかし	有趣味	～	～
	をかし	有意思	有情趣	有情味
	いとをかし	有意思	有意思	尤饶风情
二	をかし	有意思	妙	有特色
三	をかし	有意思	有情趣	实多乐趣
	をかしけれ	有意思	～	兴致勃勃
	をかし	很好玩	逗人好笑	可笑
	をかしけれ	有意思	有意思	别有风情
	をかしけれ	很好玩	令人吃惊	有趣
	をかし	有意思	有趣儿	十分有趣
	いとをかしきに	有意思	真滑稽	有意思
三・二	をかし	有意思	妙趣横生	热闹
三・三	をかし	有意思	可爱	有趣
	をかしけれ	有意思	异彩纷呈	赏心悦目
	いとをかし	有兴趣	十分风雅	真个风流极
	いとをかし	有意思	非常快活	尤其可乐
	をかし	有意思	心旷神怡	快感
	をかしきに	有意思	何等心绪	不可言喻
三・四	をかしけれ	有兴趣	大有可观	～
	いとをかし	有意思	耀眼	好看
	をかし	有意思	新鲜	～
合計	21	4/21 (19.05%)	17/19 (89.47%)	17/18 (94.44%)

以上は『枕草子』の第三章までのデータだけだが、この表からでも十分に周作人の翻訳の姿勢と他の二人との違いがわかる。21個「をかし」について、周作人は16箇所を「有

²² 黄燕春 2019年「白居易の感傷詩が清少納言に与えた影響について」江西理工大学 (データの一部分)

意思」と訳し、他の場合を合わせて4種類の訳語しか使っていない。一方、他の二人は使っている訳語が十数種類ある。

他の二人と比べると、周作人には基本的に一定の日本語を決まった中国語に訳すという直訳の姿勢が見える。つまり、原文の言葉に対して忠実に対応して同じ訳語を使っていることである。そして、このような翻訳の仕方では訳すと難解な訳文になりそうだが、決してそうっておらず、むしろほとんど「有意味」で訳した周作人の訳文の方が説明した訳文の他の二人と比べるとわかりやすい。もちろん、周作人の中国語の語彙が少ないからではない。周作人がいろいろな種類の訳語を使わないのは、彼が原作の風格や表現の手法を伝えるとともに、中国の読者の受け入れ能力を考えた結果である。他の二人は訳文の言葉の流麗さを重視しすぎて、「をかし」の訳語に対して二回以上使った訳語がなく、原作の影が全く見えない。これは現代中国語を用いている点では林紓の「諸子の文で外国人の言葉を書く」とは異なるが、翻訳の思想的には林紓の「中国中心主義」という弊害を踏襲している。

2-2-2 国木田独歩の『少年の^{こども}悲哀^{かなしみ}』の翻訳の比較

次に、周作人が翻訳した『少年の悲哀』²³（1923年出版）と呉元坎（1913-1989年）が翻訳した『少年の悲哀』²⁴（1978年出版）を比較してみたい。具体的には、日本語の原文と中国語訳文を比較して、原文の漢語・漢字表記の語（訓として使用している場合を含む）について訳文ではどのようなになっているか、直訳の状況を考察する。

まず、国木田独歩の『少年の悲哀』の原文から以下のように下線を引いた漢語・漢字表記の語（一文字、二文字、三文字を含め）を抽出すると、人名・地名・数字も合わせて1400語（全文5238字）あった。

²³ 周作人 1923年『現代日本小説集』商務印書館

²⁴ 呉元坎 1978年『国木田独歩選集』人民文学出版社

少年の歡喜が詩であるならば、少年の悲哀もまた詩である。自然の心に宿る歡喜にしてもし歌うべくんば、自然の心にささやく悲哀もまた歌うべきであろう。

ともかく、僕は僕の少年の時の悲哀を一ツ語ってみようと思うのである。(と一人の男が話しだした)

次に、周作人と呉元坎が翻訳した『少年の悲哀』から以下のように原文の漢字表記のままと同じ表記で翻訳された部分を取り出した。すると、上記の 1400 語の中で原文の漢字表記そのまま訳文に使われている部分は、周の訳文では 573 語 (40.93%) あり、呉の訳文では 497 語 (35.50%) ある。例えば、上記の原文の冒頭の部分に対して、周と呉の訳文は以下の通りである。(下線部分は原文の漢字表記がそのまま使われている箇所である)

① 周作人

“少年的歡喜倘是詩，少年的悲哀也是詩。宿在自然的心里的歡喜若是可歌的，那在自然的心里低語的悲哀也是可歌的了。

总之我现在想将我少年時候的悲哀之一，讲给诸君听听。”……一个男子这样的说。

② 呉元坎

如果说，少年时代的欢乐是詩，那末，少年时代的悲哀也是詩，如果说，对存在于自然的内心里的欢乐应该歌颂，那末，对隐藏在它内心里的悲哀，恐怕也是应该歌唱的吧。

不管怎么样，我想讲一段我少年时代的悲哀的故事。(一个朋友对我这样说。)

二人の訳文を比較すると、周作人の訳文の方が対応する箇所の原文の漢字表記をそのまま利用した頻度が多いと分かる。

さらに、両者とも同じように原文の漢字表記そのままの翻訳となっている部分でも、次の挙げたように訳し方が違っている。

(1) 増訳²⁵ (同じ原文の表記に使っていても、他の語を足して訳す場合)

²⁵ 原文の二文字を区切って別々に他の語を足して訳す場合は入っていない。例えば、一室→一間客室、断念→断了念頭などは含まない。

呉元坎は原文の表記をそのまま利用してはいるが、他の語を足した訳語が見られる。例えば、先の冒頭部分での「少年」について、周作人はそのまま「少年」に訳すが、呉元坎は「時代」を足して「少年時代」に増訳している。周作人の訳文も全く増訳を使わないとは言えないが、全体から見れば、呉元坎の訳文には増訳されたところが多い。比較すると、呉元坎が使っていた増訳の語は周作人より 67 語多い。出現した順番に次に挙げた通りである。(括弧内の部分は増訳した部分である)

少年 (+時代) →少年時代	n+n	(内+) 心→内心	n+n
歌 (+唱) →歌唱	v+v	歌 (+頌) →歌頌	v+v
一 (+段) →一段	n+n	(度+) 過→度過	v+v
心 (+里) →心里	n+n	泉 (+水) →泉水	n+n
池 (+塘) →池塘	n+n	(曠+) 野→曠野	adj+n
海 (+灘) →海灘	n+n	(勸+) 誘→勸誘	v+v
(端+) 正→端正	adj+adj	樂 (+觀) →樂觀	v+n
夜 (+晚) →夜晚	n+n	堤 (+岸) →堤岸	n+n
月 (+亮) →月亮	n+adj	(清+) 澄→清澄	adj+adj
月 (+光) →月光	n+n	夢 (+境) →夢境	n+n
(霧+) 靄→霧靄	n+n	煙 (+霧) →煙霧	n+n
高 (+漲) →高漲	v+v	(小+) 橋→小橋	adj+n
(反+) 映→反映	v+v	(大+) 湖→大湖	adj+n
歌 (+声) →歌声	n+n	(爽+) 朗→爽朗	adj+adj
(改+) 變→改變	v+v	(北+) 面→北面	n+n
(東+) 面→東面	n+n	陸 (+地) →陸地	n+n
海 (+港) →海港	n+n	海 (+浜) →海浜	n+n
(犹+) 如→犹如	v+v	小 (+小) →小小	adj+adj
港 (+湾) →港湾	n+n	夏 (+天) →夏天	n+n
(敞+) 开→敞开	v+v	笛 (+子) →笛子	n+n
(声+) 音→声音	n+n	後 (+面) →下面	n+n
下 (+面) →下面	n+n	(河+) 堤→河堤	n+n
交 (+談) →交談	v+v	(領+) 先→領先	v+v
人 (+声) →人声	n+n	(大+) 海→大海	adj+n

指（＋頭）→指頭	n+n	（衣＋）袖→衣袖	n+n
眼（＋睛）→眼睛	n+n	笑（＋容）→笑容	v+n
灯（＋光）→灯光	n+n	（明＋）月→明月	adj+n
涙（＋花）→淚花	n+n	（哭＋）泣→哭泣	v+v
歌（＋子）→歌子	n+n	默（＋默）→默默	adj+adj
（相＋）送→相送	adv+v	叱（＋責）→叱責	v+v
（停＋）止→停止	v+v	淡（＋淡）→淡淡	adj+adj
時（＋候）→時候	n+n	（感＋）覺→感覺	v+v
流（＋落）→流落	v+v	（天＋）涯→天涯	n+n
死（＋亡）→死亡	v+v		

また、上記の語についてどのような語構成かを検討してみたい。まず、品詞に従って分類すると、

n+n（名詞＋名詞）：35語	v+v（動詞＋動詞）：17語
adj+adj（形容詞＋形容詞）：6語	adj+n（形容詞＋名詞）：5語
v+n（動詞＋名詞）：2語	n+adj（名詞＋形容詞）：1語
adv+v（副詞＋動詞）：1語	

この分類から見ると、主に「名詞＋名詞」、「動詞＋動詞」の形式で訳されたものが多い。次に、「形容詞＋形容詞」と「形容詞＋名詞」になる語も少々見える。また、「形容詞＋形容詞」の中には同じ単語・語根を重ねた「疊語」になる語も見える。さらに、「名詞＋名詞」、「動詞＋動詞」と「形容詞＋形容詞」のような同じ品詞を重ねた訳語の意味を分析すると、足した部分（括弧内の部分）は元の部分と意味がほぼ同じである。つまり足しても足さなくても意味が伝わるものがほとんどである。そのことから、呉元坎は訳文の華麗さのために増訳したと考えている。一方、周作人は原作の風格を忠実に中国人に伝えるために直訳したと考えている。

(2) 同一性（同じ原文を同じ訳語で訳すかどうか）

同じ原文が何回か出てきたとき、同じ訳語で訳すかどうかでも、両者の違いが見られる。例えば、「歌う」について、動詞として9回出てくるが、周作人と呉元坎の訳語は以下の通りになっている。

周作人：歌、歌、唱歌、唱着歌、唱着歌、唱着歌、唱歌、唱歌、唱歌（3種類）

呉元坎：歌頌、歌唱、歌、呼着曲子、呼起歌儿、歌声、唱歌、唱个歌子、唱歌（8種類）

『枕草子』の「をかし」の翻訳と同じように、周作人は極力なるべく同じ原文を同じ訳語で訳そうという姿勢が見られる。呉元坎はむしろ同じ訳語を使わないように訳している態度が見られる。

このように増訳をあまりしないことも同一性が高いことも、周作人の直訳の姿勢の表れが見ることができる。つまり、原文の内容に忠実で、勝手に増訳せず、できるだけ同じ訳語を使うという姿勢である。

次に上記の1400語の中で、呉元坎は原文の単語を使っておらず、周作人は使っている例を分析してみたい。まず、以下に周作人が原文のままに用いていた訳語を全部挙げる。

名詞：歡喜、叔父、叔母、高遠、近郊、不自由、心事、波紋、清光、靄、平野、月光、貿易、往来、舷灯、灯影、画図、寂寥、橙、一室、傍、顔、両親、死別、姉弟、船歌、今、夜

形容詞：浅黒（い）、低（い）、泥臭（い）、狭（い）、詳細（な）、急（な）、古（い）、懊（しい）、静肅（な）

動詞：宿（る）、居（る）、進（む）、如（く）、合（せる）、浸（す）、顧（みる）、見慣（れる）、抛（る）、臨（む）、浮（かぶ）、起（こる）、立（つ）、導（く）、干（す）、勸（める）、迷（う）、含（む）、可（う）、仰（ぐ）、断念、会（う）、摇曳（ぐ）、注（ぐ）、泣（く）、辞（す）

副詞：暫時（く）

この中で、呉元坎は増訳したが周作人は原文のままに翻訳している語として、高遠（高深遠大）、靄（霧靄）、一室（一間客室）、船歌（船家小歌）、夜（夜晚）、如（犹如）、断念（断了念頭）などがある（括弧内の語は呉元坎の訳である）。

また、周作人が原文のままに翻訳したが、呉元坎は大体意味が似ている他の訳語を使っている例もある。例えば、

(括弧内の語は呉元坎の訳である)

歡喜 (歡樂)	<u>叔父</u> (叔叔)	<u>叔母</u> (嬸嬸)	近郊 (附近)	波紋 (漣漪)
平野 (平原)	月光 (月色)	貿易 (生意)	往来 (走)	舷灯 (航灯)
画窓 (図画)	寂寥 (寂寞)	橙 (桔)	<u>傍</u> (旁边)	<u>顔</u> (臉)
<u>両親</u> (双親)	<u>死別</u> (去世)	<u>姉弟</u> (姐弟)	今 (現在)	<u>低</u> (矮)
<u>狭</u> (窄)	詳細 (仔細)	<u>急</u> (陡)	<u>古</u> (旧)	静肅 (平靜)
<u>宿</u> (存在)	<u>居</u> (住)	進 (豊富)	<u>合</u> (接)	浸 (酒)
<u>顧</u> (看)	見慣 (看慣)	抛 (背)	臨 (面)	<u>立</u> (站)
<u>王</u> (尽)	迷 (猶豫)	<u>会</u> (見)	<u>注</u> (斟)	<u>泣</u> (哭)
<u>辞</u> (告別)	<u>暫時</u> (一会儿)			

などがある。上記のリストの中、線を引いた部分は古い言い方で現代中国語ではほぼ使わないので、呉は別の訳語を使用したと見られる。

さらに呉元坎が「不自由」を「自由」に翻訳した特殊な例もある。この「不自由」について分析してみたい。

原文：山にも野にも林にも溪にも海にも川にも僕は不自由を為なかったのである。

周作人訳：山野，树林，溪泉，河海，都于我没有一点不自由的地方。

呉元坎訳：不论是山，旷野或是树林，不论是小溪，大河或是海滩，到处都是我的自由天地。

原文の「不自由を為なかった」に対して、周作人は直訳に「没有……不自由」と翻訳している。一方、呉元坎は原文の二重否定を肯定にして「自由」と翻訳している。原文での「不自由を為なかった」というのは、主人公が自然の環境中でいつでもどこでも苦もなく行けるということである。呉元坎のように「自由」で訳してしまうと、原文とはニュアンスが違っている。例えば、「お金に不自由しない」と「お金が自由である」の区別である。

「お金に不自由しない」とは大きな贅沢はできないものの、生活に大きな余裕を持っていることを指す。もしくは「幸せな小金持ち」のことである。

「お金が自由である」とは、非常に大きな富を持っていることである。あるいは「贅沢な大金持ち」のことを指す。

さらに、後文の内容から見ると、主人公の「不自由を為なかった」は次のように青楼の女の本当の不自由と対比していることが見える。例えば、下記の原文のように。

「それはそうだけれど——考えてみると、死んだほうがなんぼ増しだか知れないと思
って。」

「両親に早く死別れて唯った二人の姉弟ですから互に力にしていたのが今では別れ
別れになって生死さえ分らんようになりました。わたしも近いうち朝鮮につれて行か
れるのだから、もうこの世で会うことができるかできないかわかりません。」と言っ
て涙が頬をつとうて流れるのを拭きもしないで僕の顔を見たまますすり泣きに泣い
た。

この青楼の女は両親を失って、弟とも戦争で別れを余儀なくされて、お互いに生死さえ
分からないようになり、さらに自分はまもなく朝鮮に連れ去られ、弟といつまた会うこ
とができるか分からないという不自由な状況である。作品の初めには「僕」の幸福で自由な
少年生活が描かれる。それについて「不自由を為なかった」と表現し、後文の青楼の女の
本当の不自由な人生と対比させているように見える。

以上のように、日本古典文学『枕草子』と現代小説『少年の悲哀』の翻訳を比較してみ
ると、周作人の原文に忠実な直訳の態度がはっきり見える。周作人は林紘の影響を脱して、
『域外小説集』より以前の「中学為体、西学為用」（中国文学は主として、西洋文学は補
佐とする）のような「中国文学のために」の翻訳ではなく、外国文学を忠実に翻訳する
という「外国文学のために」の翻訳思想になり、かつ「信」を追求する同時に「達」も欠か
ないという成熟した直訳観を確立していた。

第3章 和製漢語の定義・分類

3-1 和製漢語とは

日本語の語彙は、出自によって和語、漢語、外来語、混種語の4つのカテゴリに分類できる。その中で、漢語（中国語からの借用語）が全体のほぼ半分を占める。また、漢語には日本人が独自に漢字を組み合わせて作成した熟語も含まれている。これは「和製漢語」と呼ばれることもある。ただし、和製漢語の定義や範囲について異なる意見が分かれている。例えば、日本の『漢字百科大事典』は「和製漢語」を次のように説明している。

漢語の日本語化として、日本で生まれた漢語(字音語とも言う)を和製漢語とも言い、本来の漢語(中国語)にない漢語である。和製熟語ともいう²⁶。

一方、陳力衛は「和製漢語」の具体的な分類について、中国の古典に由来するかどうかを基準として、「和製漢語」を中国の語彙と日本人が作成した語彙の2種類に分けた²⁷。前者には「激動、洋行、社会、経済」が含まれ、後者には「大根、出張、焼亡、量見、抽象、哲学」などが含まれる。

『漢語外来詞詞典』（劉正琰、高名凱等編 1984年上海辞書出版社）では「和製漢語」のことを「日語外来詞」という。劉・高二人は「日語外来詞」について、次の通りに述べた。

這些外来詞几乎“侵入”了我們文化的每一个部門、我們生活的每一个角落。不但在政治、經濟、文学、芸術、哲学、科学、文化、教育等方面的用語中有大量的外来詞，就是日常生活中的衣、食、住、行等方面的用語中也有不少的外来詞²⁸。

²⁶ 佐藤喜代治 1996年『漢字百科大事典』明治書院

²⁷ 陳力衛 2005年「和製漢語の形成」国文学解釈と鑑賞 39頁

²⁸ 高名凱・劉正琰 1958年『現代漢語外来詞研究』文字改革出版社 138頁

(訳：これらの外来語は我々のほぼ全ての文化部門と生活の隅々にまで侵入した。政治、経済、文学、芸術、哲学、科学、文化、教育などの領域だけではなく、例えば日常生活の中の衣、食、住、行（外出）の各方面でも少なからず外国語が使われていたのである。)

劉・高のこの観点は中国言語学界で注目され、1958年から1959年まで中国言語学会の月刊誌『中国語文』で「日語外来詞」を積極的に広く認定されるかどうかについて広範囲な論争を巻き起こした。王立達は「日語外来詞」について賛成派だが、さらに一步を踏み込んで、「日語借詞」（日本語から借用した語彙）という概念を打ち出した²⁹。本研究では「日語外来詞」「日語借詞」を含めて「和製漢語」という用語を統一的に用いている。

1978年に出版された中国語の辞書『現代漢語詞典』のなかで和製漢語とされる語は768語である³⁰。1984年、劉正琰ら4人が編集した中国語の外来語の辞書『漢語外来詞詞典』は、一万語（異体字を含む）以上の外来語を集め、そのうち889語が和製漢語である³¹。

「和製漢語」の多くは、主に欧米諸国語（英語、フランス語、ロシア語など）の翻訳の際に作られた語である。欧米諸国から輸入した新しい概念に対応して新しく作成された語彙もあれば、中国語に存在していて新しい意味を与えられ、生まれ変わった語もある。後者に対して、「半和製漢語」と呼ぶ人もいれば、「和製漢語」に入らないと見なす人もいる。本研究では「和製漢語」に入ると考えている。

3-2 和製漢語の発生

佐藤喜代治らが編纂した「漢字百科大事典」（1996 明治書院）の「和製漢語一覧表」には、日本の奈良時代から大正期までの「和製漢語」の計1164語が集められている。成立年代から見ると、これらの漢語は時代を江戸期以前の「和製漢語」と明治以降の「和製漢

²⁹ 王立達 1958年「現代漢語中從日語借来的詞彙」『中国語文』

³⁰ 史有為 2003年『漢語外来詞』商務印書館出版 70頁

³¹ 劉正琰ら 1984年『漢語外来詞詞典』上海辭書出版社

語」の二つに分けられる。数としては明治以降の「和製漢語」が圧倒的に多い。それらの大部分は日本人が欧米の文献を翻訳する時に作ったものである。

3-2-1 江戸期以前の「和製漢語」

高島俊男の考察によると³²、最古の「和製漢語」は「参入」という語で「万葉集」に記載されている。平安期になると「和製漢語」が次第に増え、語例として「院宣」「悪霊」などが挙げられる。しかし、「和製漢語」が大量発生したのは中世（鎌倉・室禅幕府時代）以降である。この時期に形成された「和製漢語」には、次のように作り方が三つある³³。

- A 訓読みから音読みに変えた語「返事、出張、物騒、大根、火事、立腹、心配…」
- B 和漢混合語「無造作、合点、無骨、当番、調印…」
- C 元の中国語の字形を採用し、新しい意味を与える語「中間、成敗、役人、坊主、芸者…」

A と B はもともと中国語にない語である。C は中国語にあるが、意味では中国語の意味もあるし、新しく派生した意味もあり、中国語より使う範囲が広がっている。この時期に生まれた「和製漢語」は日本人の日常生活にはめて作られたもので、中国語の意味とは関係がない。そのため、中国人にとっては、単に字を見ても意味が分からないものが多い。例えば、「成敗（せいはい）」という語は中国語でも使い、「成功か失敗か」の意味である。しかし、日本語で「せいばい」と読む時、「処罰、斬首、裁決」などの意味になるが、中国語ではこのような意味はない。

3-2-2 明治期以降の「和製漢語」

³² 高島俊男 2001 年『漢字と日本人』文藝春秋

³³ 崔崑 2007 年『進入中国的和製漢語』日語学習与研究

数量の上から見ると、明治期以降に創造された「和製漢語」が圧倒的に多く、また、その大部分は日本人が欧米の文献を翻訳する時に作った音読みの語である。したがって、これらの言葉はほとんど学問や産業、科学技術などの専門用語で、書き言葉として用いられた。日本人の日常生活の中で常に用いられた江戸時代の和製漢語とはその点で異なっている。かつ明治以降の「和製漢語」には同音異義語が多いことも特徴である。例えば、「機能/帰納」、「科学/化学」、「心理/真理/審理」、「静止/製紙/制止/製糸」などがある。

この時期に生まれた「和製漢語」は中国での日本書の翻訳ブームによって大量に中国に取り込まれた。

3-3 「和製漢語」が中国に入る理由

18世紀半ばから19世紀にかけてイギリスで始まった産業革命は速くフランス、アメリカ、ドイツなどに及んでいる。アジアにおいては、イギリスとの戦争に敗れた中国とインドは工業化にも失敗したのに対し、唯一日本は産業革命に成功し、工業化社会を築いた。産業革命の影響はやがて全世界を席卷した。産業革命によってもたらされた新事物・新思想・新概念が次々と現れ、大量の新語が生まれてきた。明治維新後、日本は急速に西洋化され、欧米のあらゆるものが潮流のように日本に押し寄せた。これらの文献資料を日本語に翻訳するために、日本の学者は何千もの新語（和製漢語）を作り出した。それらは日本社会の各分野にわたっている。

政治：「政府、官庁、公務員、議会、行政、投票…」

経済：「産業、会社、企業、銀行、保険、金融、電気…」

交通：「鉄道、汽車、電車、航空、電信、電話…」

体育：「体操、水上、競走、野球、卓球、審判…」

文学芸術：「悲劇、背景、文学、美術、演出、脚本…」

社会生活：「乗客、場合、集団、日程、社会…」

中国の清朝後期（1840年ごろ）、外国文書の中国語訳本は主に中国にいる欧米の宣教師及び官営の京師同文館、江南製造局から来たもので、日本語版の書籍から来たものはほとんど見られない。しかし、1894年から1895年の日清戦争後の数年間で、たちまち日本語

からの中国語訳本は翻訳書の第一位になった。日本の「和製漢語」が大量に中国に流入したのはこの時期である³⁴。では、日本人が作った「和製漢語」はなぜ続々と中国に進出してきたのか。以下にその要因としてこれまでに指摘されたことをまとめてみる。

a、言語文化的要因

日中両国の言語では漢字と漢字語を共用している。これは日本の「和製漢語」が中国に入る前提条件である。「和製漢語」は漢字を組み合わせて作られたが、ほとんどの「和製漢語」は中国語の漢字の意味と中国語としての熟語の造語法の規則にしたがって作られている。そのため、子供の頃から漢字と漢語の薫陶を受けた中国人にとって、受け入れやすい。それに加えて、日本は古くから中国の影響を受けてきたので、欧米諸国に比べて、日中両国は言語文化においても生活習慣においても、いろいろな面で共通点がある。中国は同じ漢字文化圏の日本語の語彙を受け入れることについて、心理的には大きな障害がない。

b、経済政治的要因

「和製漢語」が中国に流入した全盛期は 20 世紀初頭の数年または十数年であった。当時、経済的に日本は中国よりはるかに発展しており、各分野の専門用語（ほとんど漢語である）の確立も明らかに中国より早い。日清戦争の翌年（1896 年）、中国から初めて日本に留学する学生が 13 人派遣された。日本の学者である実藤恵秀の研究によると、1906 年の中国人留学生は 8000 人に達した。それ以来、日本語の「和製漢語」は留学生によって中国に伝えられた。古くから漢字語の一方向の流れ（中国→日本）は双方向の交流に変わり始め、さらに日本語から中国語への流れが強くなった。

c、地理的要因

中国と日本とは一衣帯水の隣国であり、地理的には日本は欧米諸国よりずっと中国に近い。中国人にとって留学しやすいし、日本の書籍を通じて西洋文化を知ることできる。そのため、当時の中国における西洋著作はほとんど日本語からの翻訳である。さらに、経

³⁴ 朱京偉 2005 年「日中漢語の交流」国文学解釈と鑑賞

済、交通、通信などがまだ整っていない当時、日本から新しい言葉を受け取るのは中国にとって経済的で便利である。

これらの三つの要因を周作人のことと当て嵌めて考えると、いずれも周作人が「和製漢語」を多く使うことに関わっている。そもそも留学生たちがなぜ日本に留学するのかを考えれば、日本が近いし、言語文化と生活習慣も似ているからだろう。周作人が日本に留学することを選んだのも、同じような考え方に影響されているかもしれないが、他の留学生と決定的に違うのは兄の魯迅からの影響である。周作人は日本に留学する前に、常に魯迅から日本の書籍と日本で見聞したことに関する手紙を受け取り、日本という国に対する興味と好奇心を満たして、そのため後も日本に留学することを選んだ。日本と日本語に興味があるからこそ、周作人は積極的な態度を持ってきちんと「和製漢語」をわかったから「和製漢語」を使っている。

3-4 中国での「和製漢語」に対する分析

中国で「和製漢語」についてどのような研究されたか、あるいは中国語における「和製漢語」の実態はどうなっているか。以下は三つの方面から検討してみる。

a、数量の考察

中国の学者史有為は、『漢語外来詞』³⁵で共時言語学の観点から中国に入った「和製漢語」について研究した。史有為の研究によると、近代の中国語の文献の中で「和製漢語」について触れているのは七篇ある。表でまとめると次の表2の通りである。

表 2

著作名	著者	年代	和製漢語の数量
『使東述略併雜詠』	何如璋	1877年	数十語

³⁵ 史有為 2003年『漢語外来詞』商務印書館出版

『日本国志』	黄遵憲	1898 年	100 語余り
『新爾雅』	汪榮宝、葉瀾	1903 年	135 語
『現代漢語詞典』	中国社会科学院語言研究所 詞典編輯室	1978 年	768 語
『漢語外来詞詞典』 ³⁶	劉正琰、高名凱等	1984 年	889 語
「你嘴里的話有很多是 日本進口」 ³⁷	陳柔緒	1993 年	50 語
『新華新詞語詞典』	商務印書館辭書研究中心	2003 年	9 語

表 2 から見れば、1903 年と 1978 年の間で和製漢語の数は 135 語から 768 語までに急に増加しており、逆に 1984 年と 1993 年の間では 889 語から 50 語までに急減している。

それでは、なぜ 20 世紀末から「和製漢語」が減少の傾向になるのか。前述のように、「和製漢語」の大量発生は明治以降の日本の人々は新しい事物、新しい概念を表す時に漢字語を使った。その中の大部分は中国の古典文献から転じて来たものであり、また一部は日本の独自の造語ではあるが、それは基本的に中国語の形態素によって創造したのである。これらの漢語は中国語の話者にとって、初めて見ても意味がほとんど通じる。例えば、「電車」「哲学」「無線」などのような和製漢語である。しかし、第二次世界大戦後の日本は外来語を吸収する際に直接カタカナで表現し、新漢語（伝統的な意識法で作った漢語）を基本的に放棄し、中国語への直接的な影響を失った。特に 80 年代から始まったコンピューターネットワーク言語はほとんどカタカナで、英語で直接表現されるものもある。カタカナは中国人にとって知られていないから、それらの漢語は中国語の中に溶け込むなどことができない。そのため、近代になるほど中国語に持ち込まれた日本語が激減してしまう。

もう一つの原因は、欧米の作品を直接中国語に翻訳することが増えているからである。改革開放政策（1978 年）を実行した以来、中国の経済は急速に成長しており、対外貿易も拡大している。欧米文化を学ぶために、中国人は日本を通して学ぶことだけでなく、

³⁶ ただ注意すべきなのは、当時の中国の外来語の研究がまだ不十分であったため、この辞書で収集した日本語の出所は十分ではなく、しかも一部の語は実際には中国が日本より先に作成したもので、誤って受け入れられたということである。

³⁷ 1993 年 2 月 20 日、台湾の学者陳柔緒が書いた「你嘴里的話有很多是日本進口的」（君の口の中の言葉には日本からの輸入が多い）には、「今台湾で通用している日本からの固有名詞は 50 語近くあります」。

欧米に留学することも増えている。それで、欧米の作品を直接中国語に翻訳することも多くなっている。

これまでの研究では、日本人が創造した「和製漢語」の範囲と数の実態は厳密的に把握するのは難しい。「漢字百科大事典一覧表」（以下「一覧表」という）に収録されている「和製漢語」の総量は1164である。ただし、朱京偉の研究によると³⁸、この「一覧表」は江戸期以前の日本の文献の「和製漢語」800語近くが収められていない。確かに、「和製漢語」が大量に発生するのは明治以降であるとはいえ、「一覧表」から漏れた「和製漢語」もかなり多いことになる。朱京偉（1999年）の研究に指摘されたものと合わせると、「和製漢語」の総数は少なくとも2000語以上ではないかと思積ることができる。しかし、中国語の辞書を確認すると中国に進出した「和製漢語」は900語以下にすぎない。間違いなく、この過程では厳格な選別と取捨選択を経ている。

b、分布の領域

中国の辞書に載せた「和製漢語」から見ると、中国に進出した「和製漢語」の大部分は、当時中国社会になかった、あるいは生まれたばかりの新しい概念、新しい事物、新しいものを表現するためである。中国語に取り入れられた「和製漢語」の分野の分布を明らかにするため、『漢語外来詞詞典』及び『新華新詞語詞典』を対象に分野ごとの個数を調査した結果、以下ようになった。

³⁸ 朱京偉 1999年「和製漢語的結構分析和語義分析」日語学習与研究

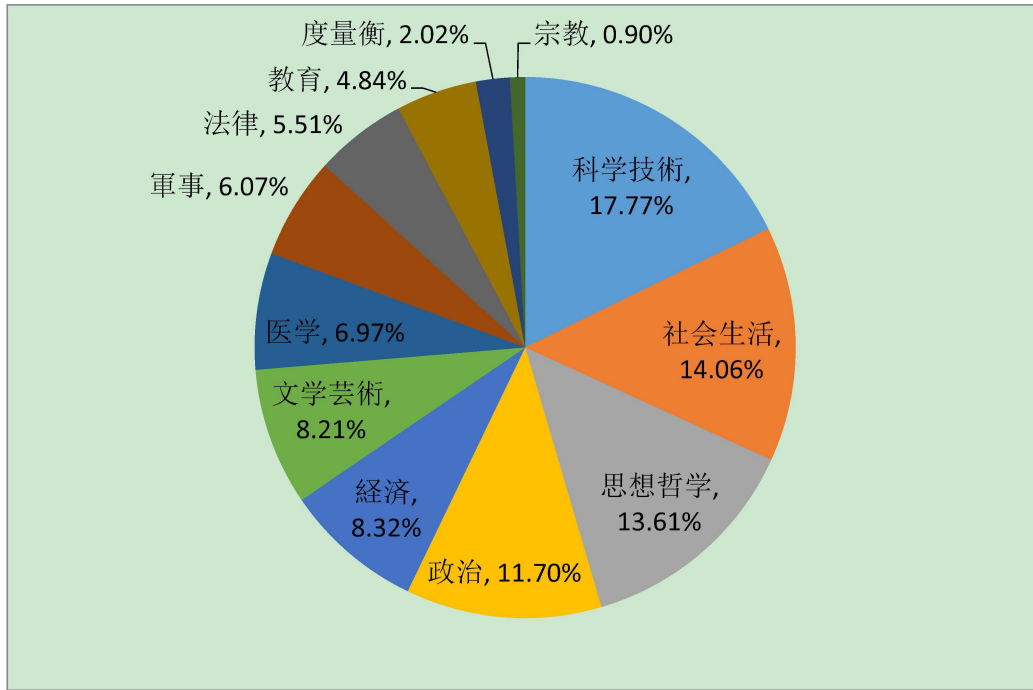


図1 分野の分布 (『漢語外来詞詞典』)

『漢語外来詞詞典』の「和製漢語」は計 889 個である。科学技術(158 語)、社会生活(125 語)、思想哲学(121 語)、政治(104 語)の面が多く、これらで総数の約 57%を占めている。宗教用語の割合は最も少なく(8 語)、ほとんどがキリスト教に関する言葉である。先述の通り、これらの「和製漢語」が西洋から新しい概念・事物の影響を受けて作られた語であり様々な分野に及んでいることから、この時期日中両国は西洋の影響を深く受けていることがわかる。ただ、中国語における「和製漢語」は全て西洋由来のものではなく、日本社会独自の概念や物事を表すものもある。例えば、「茶道、歌舞伎、狂言、俳句、柔道」など。

これらの「和製漢語」が中国に進出できるのは、既存の語彙だけでは当時の社会発展の需要を満たすことができず、これらの語がその需要を素早く満たすことができたからである。

一方、『新華新詞語詞典』に挙げられた「和製漢語」は次の 9 語しかないが、これらは中国語での使用頻度が非常に高く、いずれも社会生活の用語である。

過労死、卡拉 OK (カラオケ)、量販店、企劃、人気、瘦身、宅急便、物語、写真

それらの語は全て 2000 年前後に新しく伝えられた語であり、西洋の概念と関係なく日本の消費社会が生み出したものや「若者文化」などと深く繋がっている。しかし、これらの言葉が完全にそのまま中国に伝わったわけではなく、一部は少し変えられた後に中国語に定着している。例えば、「卡拉 OK」「写真」である。

「卡拉 OK」- 日本語のカラオケの意味で、原語は片仮名であるため、音訳してから中国語に伝えられた。

「写真」- 中国語の「写真」は一般的には「モデル、タレント」、とりわけ女性の「モデル、タレント」を写したものと指し（日本語のグラビア写真のこと）、普通の人を写したものは中国語で「照片」と言う。

これら中国に進出した「和製漢語」は中国社会に新鮮な血液を注ぎ、同時に中国の言語の宝庫を極めて豊かにした。

c、意味の変化

前文の「写真」のように、「和製漢語」は中国語に伝えられる過程で意味が少し変化してきた。明治期以降の「和製漢語」はほとんど西洋由来の外来の概念を示すために作られたものだが、2000 年頃に新しく作られた「和製漢語」はそうではなく、日本の消費社会の産物である。しかし、いずれも中国語にとっては外来の概念だったため、中国語に持ち込まれた際に意味の変化をしがちである。

これまで、意味の変化に関する研究は盛んに行われている。例えば、陳力衛（2001 年）³⁹には中国語側から日中同形の和製漢語についてその意味変化の要因を検討されてきている。あるいは、高野繁男（2004 年）⁴⁰は漢語について日中両国語の意味を同一、重複、異種三つの層別に分けている。「和製漢語」の意味変化に関する研究はあまり注目されてこなかった。

そのため、本章ではこれまで収集した「和製漢語」の中から、いくつかのパターンにまとめて例を挙げながら意味変化を分析してみる。

① 意味変化なし

³⁹ 陳力衛 2001 年『和製漢語の形成とその展開』汲古書院 360 頁

⁴⁰ 高野繁男 2004 年『近代漢語の研究-日本語の造語法・訳語法-』明治書院 227 頁

中国語に持ち込まれた時、意味が変わらないもの。

例えば、『新華新詞語詞典』の「過労死」、「量販店」は日中両国語の意味が同じである。

「過労死」－（日）働き過ぎによる過労のため死亡すること。

（中）因过度劳动导致积劳成疾而死。

「量販店」－（日）大手スーパーマーケットや大規模の家庭電気専門店など、大量に商品を仕入れて、大量に売っている店。比較的に低価格であることが多い。

（中）仓库型的百货批发店。主要特色为大量进货，成本低。

② 意味の縮小

中国語に持ち込まれた時、意味が日本語より縮小したもの。

「番号」－（日）順番を表す数字の符号。ものの識別用につけることが多い。

（中）部队的编号。

（訳：部隊の番号）

この和製漢語が日本語と異なるのは軍隊で使用される点である。それ以外ではほとんど使われない。そして、先述の「写真」も意味の縮小の一例である。

③ 意味の拡大

中国語に持ち込まれた時、意味が日本語より広がったもの。

「編制」－（日）個々のものを集めて組織だった集団をつくること。特に、軍隊を組織すること。

（中）I 把细长的东西交叉组织起来，制成器物

（訳：長い物を打ち違えて組む）

II 根据资料做出方案、计划等

（訳：資料に基づいて計画を立てる）

III 对人员进行职务分配

（訳：人員に職務を割り当てる）

「対象」－（日）目標となるもの。目当て。

（中）I 指行动或思考时作为目标的事物。

（訳：行動または考えるときに目標とするものを指す）

II 恋爱的对方。

(訳：恋愛の相手、恋人)

④ 意味の転移

中国語に持ち込まれた時、意味が完全に変わったもの。

「特務」－ (日) 特別の任務

(中) 为安全、军事、政治系统工作的特殊工作人员。

(訳：セキュリティ、軍事、政治システムのために働く特殊な職員)

「取締」－ (日) 厳しく治める。管理。監督。

(中) 明令取消或禁止某事。

(訳：何かを取り消す、または禁止するように命じる)

第4章 周作人訳文中の和製漢語

周作人は多くの日本文学作品を翻訳し日本に関するエッセイを書き、文学翻訳、民俗研究などの分野で輝かしい成果を挙げた。それゆえ、これまで文学者、翻訳家として研究することが多いが、日中の語彙交流における周作人の役割や影響についてはほとんど言及しなかった。李鵬（2014）⁴¹は、周作人のエッセイにおける和製漢語の使用状況を初歩から少し探究したが、残った周作人の作品特に訳文はまだ論じられていない。本章では周作人が翻訳した日本の文学作品における和製漢語について考察してみる。

4-1 調査対象・方法

・調査対象

和製漢語の創造時期は主に明治以降である。そのため、本章では周氏兄弟共訳の『現代日本小説集』に周作人が翻訳した十九篇の小説を取り上げて検討する。具体的な書名は次の通りである。

国木田独歩 2篇『少年の悲哀』、『巡查』

鈴木三重吉 3篇『金魚』、『黄昏』、『写真』

武者小路実篤 2篇『第二の母』、『久米仙人』

長與善郎 2篇『亡き姉に』、『山の上の観音』

志賀直哉 2篇『網走まで』、『清兵衛と瓢箪』

千家元麿 2篇『深夜のラッパ』、『薔薇の花』

江馬修 1篇『小さな一人』

佐藤春夫 4篇『私の父と父の鶴との話』、『たそがれの人間』、『形影問答』、『雉子の炙肉』

加藤武雄 1篇『郷愁』

⁴¹ 李鵬 2014年「周作人散文中の日本語借詞初探」合肥学院学報

・調査方法

まず、佐藤喜代治の『漢字百科大事典』と高名凱・劉正琰らの『漢語外来詞詞典』から計 1597 語の和製漢語を収集した。そして、周作人が翻訳した上記の十九篇の小説を一つのテキストデータにまとめた。このテキストデータを用いて 1597 語の和製漢語それぞれの使用頻度を調査した。

4-2 調査結果

周作人が翻訳したこの十九篇の小説の中で、使われている和製漢語は 198 語ある。それぞれの使用頻度は次の表 3 の通りである。

表 3

使用頻度	和製漢語
265	時候
83	地方
45	学校
36	大家
30	实在
28	緣故 丈夫
25	可憐
24	自然
15	生活
14	生氣 先生
13	運命 時代
12	量 同情
11	談話 火車
10	顔色

9	巡査
8	警察 告訴
7	労働 清楚
6	印象 関係 偶然 時間 趣味 小説 所有 精神 家来 妻子
5	開始 主人公 出発 質 地球 動物 問題 工作 人間 平和
4	意義 運動 海水浴 学生 感覚 空想 号外 交際 自由 正当 説明 文学 方法 身分 謹慎 小心 独身 放心 老婆
3	看護婦 芸術 作品 失恋 商業 女性 通信 電話 本能 了解 原意 原作 請求 勉強
2	意識 気分 空気 経営 恐慌 言語 健康 建筑 雑誌 思想 実際 事務 出版 神経 信托 新聞 消極 総理 電車 電報 道路 日記 反響 目的 労働者 入口 無心 欄杆 和文
1	意志 意味 運動場 演習 遠足 鉛筆 海軍 解決 活動 加入 可能 機械 技師 悲劇 基調 吃茶 義務 教育 教科書 現代 警官 権威 現実 現象 光線 高潮 材料 錯覚 作用 刺激 指数 社会 主義 消防 証明 処刑 所得 人格 信号 審判 世紀 相对 接吻 専売 直接 庭球 天主 天文学 同化 反感 植物 特許 内閣 人称 背景 派遣 反射 飛行 批評 病院 舞台 平野 貿易 黙示 理想 留学 歴史 愛人 案件 打消 学会 看病 気絶 結束 元気 作者 三味線 上手 下品 小人 心中 茶店 唐突 当面 読書 能楽 俳句 不時 方便 迷惑 面倒 老師

高名凱・劉正琰らが『漢語外来詞詞典』を編集した当時、中国の外来語の研究がまだ不十分であったため、この辞書でも和製漢語の出所は十分ではなく、しかも一部の語は和製漢語ではなく、中国が日本より先に作成したものも含まれている。そのため、周作人が使っている和製漢語の状況を正確に明らかにするために、それぞれの語の出自を確認することも欠かせない。そこで、以下の手順の流れに確認してみる。

第一步

中国語の古典に例があるかどうかを確認する。いつからの文学が古典になるのかという問いについてさまざまな見解があるが、本研究では『古典文献及其利用』⁴²中の「明末（1644年）以前」という説に採用し、「国学大師」（ネットでの辞書）⁴³と『漢語大詞典』を使って1644年までの例があるかどうかを確認する。結果は次の通りである。

(1) 中国語の古典に例があるもの（113語）

時候 地方 学校 大家 实在 緣故 丈夫 可憐 自然 生活 生氣 先生 運命 時代 量
同情 談話 火車 顏色 告訴 労働 清楚 關係 偶然 時間 趣味 小説 所有 精神 妻子
開始 質 動物 工作 人間 平和 勉強 意義 運動 学生 空想 交際 自由 正当 文学
方法 謹慎 独身 放心 老婆 通信 了解 原意 請求 意識 気分 空氣 經營 言語 建筑
思想 實際 事務 新聞 道路 日記 無心 欄杆 意志 意味 演習 鉛筆 海軍 解決 活動
可能 機械 吃茶 教育 權威 材料 作用 社会 証明 所得 人格 相对 直接 天主 植物
内閣 飛行 批評 舞台 平野 貿易 歴史 愛人 氣絶 結束 元氣 作者 上手 下品 小人
心中 唐突 当面 読書 不時 方便 迷惑 老師

(2) 中国語の古典に例がないもの（85語）

巡查 警察 印象 家来 主人公 出発 地球 問題 海水浴 感覺 号外 説明 身分 小心
看護婦 芸術 作品 失恋 商業 女性 電話 本能 原作 恐慌 健康 雑誌 出版 神經 信
托 消極 総理 電車 電報 反響 目的 労働者 入口 和文 運動場 遠足 加入 技師 悲
劇 基調 義務 教科書 現代 警官 現実 現象 光線 高潮 錯覚 刺激 指数 主義 消防
処刑 信号 審判 世紀 接吻 専売 庭球 天文学 同化 反感 特許 人称 背景 派遣 反
射 病院 黙示 理想 留学 案件 打消 学会 看病 三味線 茶店 能楽 俳句 面倒

第二步

第一歩の（1）中国語の古典に例があるもの（113語）を意味変化しているかどうかを確認する。第一歩の確認において、（2）中国語の古典に例がないもの（85語）は新造語、つまり「和製漢語」と見ることができる。古典に例があるものは古典の意味と同じかどうかを確認する必要がある。本研究は『大漢和辞典』での日本語の意味と『漢語大詞典』で

⁴² 楊琳 2017年『古典文献及其利用』（第四版）北京大学出版社

⁴³ <http://www.guoxuedashi.net>

の中国語の古典の意味と比較して、古義と意味が同じかどうかを確認する。結果は次の通りである。

a. 意味が古義と同じもの (50 語)

時候 地方 学校 可憐 自然 生活 生气 先生 運命 時代 顔色 告訴 労働 清楚 関係
偶然 趣味 小説 所有 妻子 動物 意義 学生 空想 交際 方法 謹慎 老婆 了解 原意
経営 道路 日記 欄杆 意志 海軍 解決 機械 相对 植物 飛行 批評 平野 貿易 気絶
作者 小人 唐突 読書 老師

b. 意味が古義と違うもの (63 語)

大家 実在 縁故 丈夫 量 同情 談話 火車 時間 精神 開始 質 工作 人間 平和 運動
自由 正当 文学 勉強 独身 放心 通信 請求 意識 気分 空気 言語 建筑 思想 実際
事務 新聞 無心 意味 演習 鉛筆 活動 可能 吃茶 教育 権威 材料 作用 社会 証明
所得 人格 直接 天主 内閣 舞台 歴史 愛人 結束 元気 上手 下品 心中 当面 不時
方便 迷惑

第三步

意味が古義と違うものを、中国語の近代の用法と同じかどうか確認する。第二步までの調査において、(1) 中国語の古典に例がある、かつ a. 意味が古義と同じもの (50 語) は「和製漢語」とは言えない。そして、b. 意味が古義と違うもの (63 語) についてさらに中国語の近代の用法と確認すると、次の語は近代中国語の意味と違う意味を持っているため、これらの語も「和製漢語」と見ることができる。

大家 実在 縁故 丈夫 人間 勉強 平和 放心 通信 気分 言語 無心 意味 愛人 結束
元気 上手 下品 心中 当面 不時 方便 迷惑 (23 語)

また、次の残りの 40 語は近代になってから新しい意味が生み出された。これらの新しい意味が日本語から来たかどうかを考証することには、膨大な量の日中資料による検証が必要であり、現在の段階では結論を出すことが非常に難しい。しかし、これらの語の新しい意味が生まれた時期を見ると、いずれも明治維新以降であり、日本書の翻訳ブームの影響を受ける可能性が高いから、本研究では和製漢語に入ると考えている。

量 同情 談話 火車 時間 精神 開始 質 工作 運動 自由 正当 文学 独身 請求 空気
 建筑 思想 實際 事務 新聞 意識 演習 鉛筆 活動 可能 吃茶 教育 權威 材料 作用
 社会 証明 所得 人格 直接 天主 内閣 舞台 歴史

これらの 198 語の出自を確認したが、周作人が使った和製漢語の意味が中国語の意味か日本語の意味かをもう一度確認する必要がある。そこで、表 3 をもう一度整理すると、以下の表 4 の通りである。

表 4

使用頻度	和製漢語
12	量 同情
11	談話 火車
9	巡査
8	警察
6	印象 時間 精神 家来
5	開始 主人公 出発 質 地球 問題 工作
4	運動 海水浴 感覚 号外 自由 正当 説明 文学 身分 小心 独身
3	人間 看護婦 芸術 作品 失恋 商業 女性 電話 本能 原作 請求 勉強
2	気分 空気 恐慌 健康 建筑 雑誌 思想 實際 事務 出版 神経 信托 新聞 消極 総理 電車 電報 反響 目的 労働者 入口 和文
1	無心 意味 運動場 演習 遠足 鉛筆 活動 加入 可能 技師 悲劇 基調 吃茶 義務 教育 教科書 現代 警官 權威 現実 現象 光線 高潮 材料 錯覚 作用 刺激 指数 社会 主義 消防 証明 処刑 所得 人格 信号 審判 世紀 接吻 専売 直接 庭球 天主 天文学 同化 反感 特許 内閣 人称 背景 派遣 反射 病院 舞台 黙示 理想 留学 歴史 案件 打消 学会 看病 元気 三味線 下品 茶店 能楽 俳句 面倒

その中で、「無心」は2回使用されたが、1回は中国語の意味「故意ではない、何気ない」で使ったため、使用頻度は1回と見なす。また、「人間」も5回使用されたが、2回は中国の古義「世の中」という意味で、残り3回は中国語に無い意味「人、人類」という意味で使ったため、使用頻度は3回と見なす。

以上、『現代日本小説集』で周作人が翻訳した十九篇の小説を研究対象として、周作人が使われた「和製漢語」を整理した。ここまでの調査では周作人が使っている漢語の中で少なくとも「和製漢語」108語であると確認した。確実ではないが、残りの40語は和製漢語の可能性が高い。このように見れば、辞書から収集した1597語の和製漢語の中で、周作人が使った和製漢語は148語(9.27%)である。

さらに、『現代日本小説集』を調査している際に、前述の通り周作人は日本語の語彙をそのまま中国語に直訳したものが多いたことが気づいた。次はその具体的な例を挙げる。

- 1) 訳文：但是他很能说能笑,笑起来眼边现出一种爱娇。

原文：處が能く語り能く笑ふ、笑ふ時は其眼元に一種の愛嬌がこぼれる、……

- 2) 訳文：“文章也妙,主意更是大赞成。”

原文：文章も面白い、主意は大賛成です!

- 3) 訳文：有时侯我在很厉害的申斥了阿房之后,随即醒悟我自己的无理,看伊隐藏了眼泪,很勉强的上街去了,我寂寞的望着伊刚才做着的一点拆洗的衣片摺叠了放着。

原文：時には私も、おふさをひどく叱りつけた直ぐあとで、自分が無理だつたことを悔いて、おふさが濱を隠しながら、かひがひしく使ひなぞに出て行つたあとに、私は先刻まで彼女が仕掛けてるた乏しい解し物が東ねてあるのを寂しく見守りながら…

- 4) 訳文：阿房却说牛乳不喜欢,什么不喜欢,一点都不要吃。

原文：おふさは牛乳は厭、何は厭だと言って、何をも食べようとしなない。

- 5) 訳文：说是行李,原不过一只女人用的信玄袋和一个包裹罢了。

原文：荷といつても、女持の信玄袋と風呂敷包が一つだけだ。

- 6) 訳文：后来又道,“好吃的,给你罢?”一只手便从信玄袋里掏出一颗“園之露”来给伊。(「園之露」について「お菓子の名前」という注釈がある)

原文：今度は、「うま、上げよう」と片手で信玄袋から「園之露」を一つ出してやる。

- 7) 訳文：火车不久到雀之宮了，去问車掌，说这里停车的时刻很短，请在后一站下去罢。
后一站是宇都宮，有八分间的停车。
原文：間もなく汽車は雀の宮に着いたが、車掌に訊くと、其間はないから此次になさい、といふ。此次は宇都宮で八分の停車をする。
- 8) 訳文：“这可窘了。”母亲踌躇了一会，从包里拉出一条小孩用的细的博多带，络在婴儿两边腋下，就想背上去；又似乎想到了，从袖底里拿出木棉手帕来，盖在自己衣领的后面，赶快的将带缚好，背了婴儿，走下月台去。
原文：「困るわねえ」母は一寸ためらつたが、包から、スルスルと細い、博多の子供帯を出すと、赤児の兩の腋の下を通して、直ぐ背負はうとしたが、袂から木綿のハンケチを出して自身の襟首へかけ、手早く結いつけおんぶにして、プラットフォームへ下り立つた。
- 9) 訳文：来访他做木匠的父亲的客看见清兵卫热心的磨着壶卢，便这样说。
原文：大工をしてゐる彼の父を訪ねて來た客が、傍で清兵衛が熱心にそれを磨いて居るのを見ながら、かう言つた。
- 10) 訳文：家里的凸哥儿无论怎样，总还是幸福的，——这样两亲都完全在这里。
原文：宅の凸ちやんなどは、何といつても仕合せだわ。一斯うして両親が揃つてゐるんですもの。
- 11) 訳文：这孤寂的歌声从窗间进来，落到我们的食卓上，这时候再没有别的事物更能使我们感着无母之儿的悲哀的了。
原文：而して、その一人で何か歌つてゐる淋しさうな聲が、窓越に私達の食卓に落ちて來る時ほど、私達に「母の無い子」の哀れさを思はせる事は無かつた。

「愛嬌、大賛成、無理、牛乳、信玄袋、車掌、博多带、熱心、両親、食卓」などの語は日本語の原文のままであり、これらのうち、「賛成」は中国語で使っているが「大賛成」という使い方はない。一方、「無理、熱心」は単語として中国語にもあるが、日本語の原文の「無理、熱心」の意味は現代中国語での意味と違う。「愛嬌、牛乳、信玄袋、車掌、博多带、両親、食卓」は現代中国語にはほとんど使わない。しかし、挙げた例文からみると、これらの語（10語）は中国人にとってはおおよそ理解できる単語である。

また、次の例文も『現代日本小説集』の訳文である。下線部分は原文にかかわらず日本語の意味で中国語に取り入れた語例である。

12) 訳文：这时候，母亲的实家也还很富裕，所以母亲的牧畜办的十分讲究。

(実家：自分の生まれた家。)

13) 訳文：在南边望见许多大火花，看去像是三四町外的地方正烧着。

(町：距離の単位。約 109 メートル。)

14) 訳文：父亲和母亲关于这个阿姊似乎平常也颇自夸，现在从照片上看来，并不是所谓美人式的一定的姿色，但是有说不尽的优美和温雅，而且与人以一种花霞似的淡淡的温暖的感觉这是我所相信的。

(花霞：満開の桜の花が、遠目には霞がかかったように白く見えること。)

15) 訳文：一面用杨枝 (刷着牙齿)，用手巾包着头发的阿姊的脸，从下面望去很美丽，这原来是最后的一见了，母亲在近时曾经这样的说。

(楊枝：歯の間にはさまったものを取り除いたり、食物を刺したりするのに用いる、先をとがらせた細く短い木の棒。つま楊枝。

中国語には楊 (やなぎ) の枝の意味である)

16) 訳文：我对于这些兵卒，昼间的疲劳还未恢复，又从瞌睡的床上被叫起来，拉到野外去的兵卒，十分同情。

(昼間：日の出から日の入りまでの間。朝から夕方までの間。日中。昼。)

日本語は中国語の翻訳を通じて中国語に受容され、現代中国語に新しい活力を与えた。現代中国社会に出現した新しい思想、新しいものを表現するには、古くからの中国語では単語が十分ではなかったと示している。1931年12月28日、魯迅は瞿秋白と翻訳問題について討論した際、次のように詳細に論じた⁴⁴。

这样的译本，不但在输入新的内容，也在输入新的表现法。中国的文或话，法子实在太不精密了，作文的秘诀，是在避去熟字，删掉虚字，就是好文章，讲话的时候，也时时要辞不达意，这就是话不够用。

(訳：このような訳本は、新しい内容を輸入するだけでなく、新しい表現法も輸入している。中国の文や話、その規則はあまりにも不精密である。作文の秘訣は、熟字を

⁴⁴ 魯迅『二心集・關於翻譯的通信』人民文学出版社 1973 年出版

避けて、虚字を削除することである。それがいい文章である。話をする時も、時々言葉が思い通りにならない。これが言葉が足りないからである。)

魯迅の言うように中国語の乏しさと不精密さゆえに、周作人は『現代日本小説集』を翻訳する際に多くの日本語を導入したのである。

第5章 現代中国語における和製漢語の受容

前述のように、日中の語彙交流は最初中国の古籍などの日本への流入が主流になっていたが、近代になると日本語訳の西洋文学などが日本から中国へと流出するようになら変わった。この往来の過程は近代新漢語の生成の最大の要因になっている。

本章ではコーパス検索によって周作人が使った和製漢語が現代中国語でどのように使われているかを分析してみる。

5-1 調査対象・方法

第4章では周作人が使った和製漢語を108語確認したが、その中で23語は和製漢語としたものが、形からは和製漢語かどうかの判断は難しいから、ここではそれを除いて中国の古典に例がないもの(85語)だけを考察してみる。使用したコーパスは、国家『語委現代漢語平衡語料庫』⁴⁵(以下『語料庫』という)と『新漢語水平考試大綱』(以下『大綱』という)である。

『語料庫』を検索することにより、研究対象語の『語料庫』における使用頻度が分かり、これに基づいて各語の『語料庫』における使用率を計算できる。『大綱』は2009年に国家漢弁組織の専門家が編纂し、6つのレベルで5000語を収録している。また、漢語水平試験(以下HSKという)の各レベルに対応する言語レベルについて詳しい説明があり、これらの説明は研究対象語の現代中国語における重要性を判断することに役立つ。

85語の研究対象語をそれぞれ上記二つの研究資料で検索し、検索データを分析する。まず、現代中国語でどの語が使用されているのか、どの語が淘汰されているのかを『語料庫』により検索できる。

次に、『語料庫』における使用頻度に基づいて、『大綱』における収録状況、収録されたレベルを参照して、現代中国語における研究対象語の使用状況を検討する。使用頻度の高低によって研究対象語を「基本語彙」と「核心語彙」に分けることができる。

⁴⁵ <http://corpus.zhonghuayuwen.org/index.aspx>

最後に上述の2種類の語彙が研究対象語に占める割合を計算することによって研究対象語の現代中国語における地位を説明し、周作人の中日語彙交流史における影響を検討する。

5-2 調査結果

『語料庫』で検索すると、対象語としたうち79語は確認でき、92.94%を占めている。ただし使用頻度は10899回から1回までまちまちである。使用頻度の高い順に具体的な使用頻度は次の通りに列挙する。(後ろの数字は使用頻度である)

問題/10899	芸術/4257	現象/4068	説明/3258	作品/2778	目的/2772
世紀/2072	現代/2008	現実/1924	地球/1724	理想/1535	商業/1297
感覚/1252	出発/1080	健康/1073	労働者/1053	主義/1042	刺激/1021
電話/770	義務/699	神経/675	加入/609	出版/595	印象/581
反射/521	総理/505	消極/437	信号/434	案件/403	光線/399
背景/363	警察/347	女性/341	悲劇/319	小心/303	高潮/293
雑誌/279	審判/275	電報/271	本能/267	留学/205	天文学/177
主人公/163	派遣/128	同化/119	恐慌/109	身分/109	電車/107
消防/102	指数/102	学会/97	教科書/95	反感/94	看病/89
反響/76	錯覚/67	入口/60	基調/57	原作/43	技師/42
専売/41	信託/37	打消/33	運動場/28	接吻/25	特許/25
警官/23	看護婦/23	黙示/22	病院/22	失恋/21	人称/21
海水浴/12	巡査/10	処刑/8	遠足/6	茶店/4	三味線/2
号外/1	家来/0	和文/0	庭球/0	能楽/0	俳句/0
面倒/0					

さらに、研究対象語の語の使用頻度によって六つのレベルに分けて、それぞれのレベルごとが全体の占める割合は次の円グラフの図2の通りである。

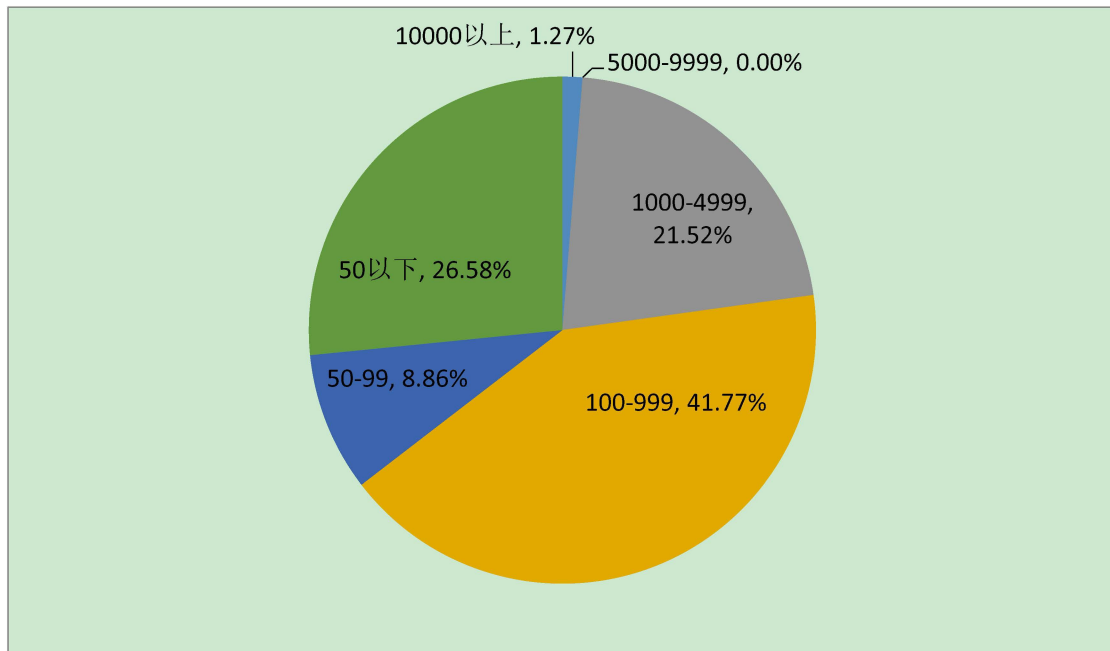


図 2

使用頻度は 1000 回以下の語が 8 割であり、そのうち 100-999 回の語が 4 割で最も多い。次は使用頻度が 50 回以下の語と 1000-4999 回の語である。

また、コーパスのデータの中で、1997 年以前のデータは約 7 割であるから、使用頻度を分析することで、1997 年以前の中国社会の生活状況と流行傾向を反映することができる。例えば、「芸術」の使用頻度は 4257 回で非常に高くから、当時の人々が芸術に関心を寄せると見える。

『「大綱」』での検索結果は次の表 5 の通りである。

表 5

HSK のレベル	求める語彙数	研究対象語の語数	研究対象語における割合
一級	150	0	0.00%
二級	300	1	1.18%
三級	600	12	14.12%
四級	1200	31	36.47%
五級	2500	57	67.06%
六級	5000 以上	72	84.71%

その中の低いレベル（二級、三級）の対象語は大体使用頻度に対応している。そして、HSK の各級試験で要求される語彙には、前の級の語彙が含まれている。すなわち、二級の 300 語は一級の 150 語を含み、三級の 600 語は二級の 300 語を含み、このように推し量る。このうち六級で要求される実際の語彙量には上限はないが、『大綱』には 5000 語の六級語彙がリストされている。この表は研究対象語の 84.71%が入っており、現代中国語でよく使われていることがわかる。

『大綱（四級）』によると、「通过 HSK 四级的考生可以用汉语就较广泛领域的话题进行谈论，比较流利地与汉语为母语者进行交流」（訳：HSK 四級に合格した受験生は中国語で幅広い分野の話題について話すことができ、中国語を母国語とする人と流暢に交流することができる）という。これは HSK 四級が中国で生活する最も基本的な要件であることを示しており、研究対象語のうち 31 語（36.47%）がこの範囲に属す。

現代漢語における「基本語彙」と「核心語彙」の数量について、様々な意見があるが、本研究では「大綱」を参考として、六級の語彙は「基本語彙」で、四級の語彙は「核心語彙」であると考え。そうすると、研究対象語には「基本語彙」が 72 語あり、「核心語彙」が 31 語あると考える。

以上のことから、周作人が用いた 85 語の和製漢語のうち 79 語は現代中国語で今も使われ、率にして 92.94%は占めていると見える。そのうち 72 語（84.71%）は現代中国語の中でも使用頻度が高く、現代中国語の基本語彙に属していると言える。そのうちの 31 語は現代中国語の中でさらに使用頻度が高く核心語彙に属し、研究対象語の総数の 36.47%を占めている。一方、6 語のみが中国語で使われないが、この 6 語のうち「和文、能楽、俳句」は日本独特なもので一般的な用語ではない。

このように考えると、周作人が使っていた和製漢語は現代中国語の中で依然として強い生命力を備えており、現代中国語の語彙構成にも大きく影響していると言える。周作人はこれらの語を初めて使った翻訳家ではないかもしれないが、彼の訳文はこれらの語の中国語での使用と伝播を積極的に推進する役割になったことは間違いない。

おわりに

本研究では、周作人の直訳法の形成と周作人訳文中の和製漢語が現代中国語での使用状況について検討してみた。

初期の日本留学生で、帰国後新文化運動の中心人物になった周作人は、他の留学生と違って、日本語・日本文化に対して積極的な態度を持っている。このような態度は日本語の勉強に現れるだけではなく、日本書の翻訳にも現れている。

周作人は、林紘の「中学為体、西学為用」（中国文学は主として、西洋文学は補佐とする）のような「中国文学のために」という翻訳の主張を打ち破り、外国文学を忠実に翻訳するという「外国文学のために」の翻訳思想になり、かつ「信」を追求する同時に「達」も欠かないという成熟した直訳観を確立していた。周作人はこのような直訳法によって、日本語から訳された訳文の中で大量の和製漢語を使っている。これらの和製漢語は現代中国語の中で依然として強い生命力を備えており、現代中国語の語彙構成にも大きく影響している。

今後の課題として、佐藤喜代治らの「一覧表」と高名凱・劉正淡らの『漢語外来詞詞典』だけではなく、もっと多くの和製漢語を収集する必要がある。また、『漢語大詞典』には古典の例が足りないのも、もっと多くの辞書を用いて調べる必要がある。たとえ中国の古典に例がないものでも、英華字典か英和字典かのどちらで先に確立されたか、もう一度確認して直す必要がある。

参考文献

- 王風（2009）「周氏兄弟早期著訳与漢語現代書写語言」『魯迅研究月刊』
- 王立達（1958）「現代漢語中從日語借来的詞彙」『中国語文』
- 大島弘子・中島晶子ら（2010）『漢語の言語学』くろしお出版
- 嚴復（1898）『天演論』中国画報出版社 2010 年出版
- 孔穎（2015）「論周作人的日語學習法」東アジア文化交渉研究 第 11 号
- 黄燕春（2019）「白居易の感傷詩が清少納言に与えた影響について」江西理工大学
- 高名凱・劉正淡ら（1958）『現代漢語外来詞研究』文字改革出版社 138 頁
- 高名凱・劉正淡ら（1984）『漢語外来詞詞典』上海辞書出版社
- 黄遙（2007）「周作人：勤耕尽瘁的翻譯大家」『英語研究』第五卷第一期
- 吳元坎（1978）『国木田独歩選集』人民文学出版社
- 崔崑（2007）『進入中国的「和製漢語」』日語學習与研究
- 佐藤喜代治（1996）『漢字百科大事典』明治書院
- 史有為（2003）『漢語外来詞』商務印書館出版
- 朱京偉（1999）「和製漢語的結構分析和語義分析」日語學習与研究
- 朱京偉（2005）「日中漢語の交流」国文学解釈と鑑賞
- 周作人（1918）『新青年』第 5 卷 3 号
- 周作人（1918）『新青年』第 5 卷 6 号
- 周作人（1920）「点滴序」『苦雨齋序跋文』上海天馬書店 1934 年出版
- 周作人（1923）『現代日本小説集』商務印書館
- 周作人（1925）「陀螺序」『苦雨齋序跋文』上海天馬書店 1934 年出版
- 周作人（1927）『談虎集』河北教育出版社 2002 年出版 317 頁
- 周作人（1936）『苦竹雜記』河北教育出版社 2002 年出版 217 頁
- 周作人（1944）『菓堂雜文』河北教育出版社 2002 年出版 100 頁
- 周作人（1951）『翻譯四題』翻譯通報 第二卷
- 周作人（2018）『周作人訳文全集』上海人民出版社 止庵編
- 邵艷紅（2013）「『明六雜誌』在中日詞彙交流中的作用与影響」日語學習与研究
- 沈国威（2017）『近代日中語彙交流史-新漢語の生成と受容』笠間書院
- 秦春芳（2007）「『実学報』日本語翻譯記事の新漢字語—『日本国語大辞典』における初出用例との比較—」広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部第 56 号
- 宋声泉（2017）「晚清学堂教育与文章变革—以周作人為中心」『解放軍芸術学院学報』
- 高島俊男（2001）『漢字と日本人』文藝春秋
- 高野繁男（2004）『近代漢語の研究-日本語の造語法・訳語法-』明治書院 227 頁

- 戴季陶（1994）『日本論』海南出版社 16-17 頁
- 張菊香・張鉄榮（2000）『周作人年譜』天津人民出版社 67 頁
- 陳柔緒（1993）「你嘴里的話有很多是日本進口的」『新新聞』
- 陳生保（1997）「中国語の中の日本語」國際日本文化研究センター 第 91 回日文研フォーラム
- 陳力衛（2001）『和製漢語の形成とその展開』汲古書院 360 頁
- 陳力衛（2005）「和製漢語の形成」国文学解釈と鑑賞 39 頁
- 野村雅昭（1988）「二字漢語の構造」『日本語学』五月号
- 潘秀蓉（2014）『周作人と日本古典文学』厦門大学出版社
- 前田均（1986）「劉正淡他編『漢語外来詞詞典』中の日本来源語彙」天理大学学报
- 村尾力（1959）「日本語の中の漢語」『言語生活』第 97 号
- 李運博（2006）「梁啓超在中日近代漢字語彙交流中的作用」日語學習与研究
- 李鵬（2014）「周作人散文中的日語借詞初探」合肥学院学报ゆう
- 楊琳（2017）『古典文献及其利用』（第四版）北京大学出版社
- 楊莉（2007）「周作人翻譯思想的形成及其影響」『訳林』
- 山田孝雄（1940）『国語の中に於ける漢語の研究』宝文館
- 魯迅『二心集・關於翻譯的通信』人民文学出版社 1973 年出版